



日本歯科大学新潟病院

# IVY NEWS LETTER

Vol.29  
2015.12.1

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

## 2015新潟伊勢丹 夏休みワンダーランドに 参加しました



小児歯科  
三瓶 素子



今年もキッズイベント「2015新潟伊勢丹夏休みワンダーランド」が、新潟市中央区万代の新潟伊勢丹で、7月29日から6日間開催されました。当院では、子どもたちに歯科医師という職業を知ってもらうため、7月29日と30日の2日間会場にブース出展しました。当日は5歳から12歳の子どもを対象に、歯科医院で使用している治療用器材と治療椅子(歯科用ユニット)を会場内に運び入れ、歯科医師と歯科衛生士の仕事を体験してもらいました。

出展ブース内では「歯医者さんのお仕事を体験」をテーマに、ヒト型患者ロボット「シムロイド」を使った歯科治療体験や、模型を用いた刷牙器具の使い方の体験、白衣を着ての記念写真コーナーを設けました。子どもたちは人間そっくりの外観と歯科治療に反応して動き、会話するロボットに好奇心いっぱい「歯医者さんのお仕事」を楽しんでいました。また子どもたちの小さな白衣姿にお母さん達は大喜びで、記念撮影は大好評でした。

「歯医者さんのお仕事体験」は当日予約制で、イベント開始後すぐに予約整理券はなくなり、2日間で80名の子どもとそのご家族が訪れ大盛況に終わりました。

今回のキッズイベントへの出展を通して、子どもたちとその保護者に歯科医師という職業に関心を持ってもらえる、よい機会になったと思っております。





## 歯科と認知症

### ～歯科医師の認知症対応能力向上に向けて～ 緊急フォーラム報告

●訪問歯科口腔ケア科  
認知症キャラバン・メイト

吉岡 裕雄



認知症患者は現在全国で400万人を超え、2025年には700万人を超えると言われています。本年1月に厚生労働省では認知症施策推進総合戦略を発表し「新オレンジプラン」と名付けられました。認知症の人の意志が尊重され、できるか限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指しています。その中で、認知症の形態に応じた適切な医療・介護の提供は一つの大きな柱とされ、早期診断・早期対応の体制整備として歯科医師の認知症対応力の向上が求められています。

本学ではこの新オレンジプランを受け、認知症を一刻も早く取り組むべき課題と位置づけ、平成27年9月6日(日)に日本歯科大学生命歯学部富士見ホールで「歯科と認知症」をテーマに日本歯科大学校友会会員を対象に緊急フォーラムを開催いたしました。

本フォーラムでは最初に名古屋市立大学大学院医学研究科教授の道川誠先生から認知症の正しい理解と最新の知見ということで基調講演をいただきました。アルツハイマー型認知症の原因因子として脳に蓄積する老人斑と言われるA $\beta$ (アミロイドベータ)タンパクと歯周病原菌のP. g菌が相関するというラットにおける基礎実験データが示され、歯周病予防が認知症予防につながっていることが考察されていました。また、初期認知症(MIC)の段階で、兆候に気づき有効な投薬や、トレーニングすることで進行を止められる可能性が示唆されました。

続いて、東京都健康長寿医療センター専門副部長の平野浩彦先生からは認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)と歯科治療というテーマで基調講演をいただきました。認知症高齢者は400万人を超え、珍しい疾患ではなくなりました。そんな中で認知症の方、またはその家族が安心して暮らせる社会づくりを考えていく必要があります。我々歯科医師も認知症を科学的に理解し、正しい対応ができるよう準備をしておかなくてはなりません。

午後からは4名のパネリストがそれぞれの専門分野から認知症患者への歯科における臨床的なアプローチをそれぞれ解説した後、ディスカッションがされました。会場からも質問を受け、活発な討議が行われました。

本フォーラムの様子は近日、メディア(株)より出版される予定になっておりますので、ご興味ある方は是非お手に取ってみてはいかがでしょうか。



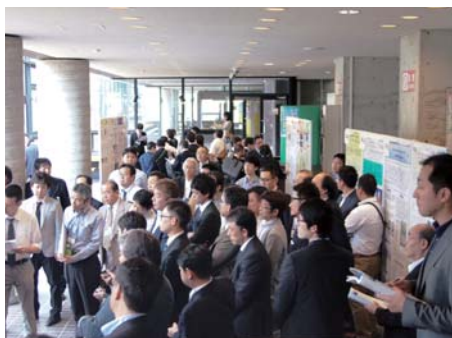
## 日本スポーツ歯科医学会開催報告

● 歯科補綴学第1講座  
准教授

水橋 史



参加者でいっぱいの会場内



活発な討議が行われたポスターセッション

第26回日本スポーツ歯科医学会 総会・学術大会が平成27年6月20日(土)・21日(日)の両日、日本歯科大学新潟生命歯学部で「スポーツ歯学の動向と、未来への提言」をメインテーマに開催されました。本学術大会では、スポーツ歯科医学における現在の課題と将来像について考えるとともに、歯科に特化した咬合と競技力との関係や競技種目と下顎位の関係など、より具体的な指針を究明する、との目標が小出 馨大会長より掲げられました。シンポジウム、特別講演、教育講演など企画数は10、発表演題数は80、広告・展示協力企業は25社を数え、参加者数は約600名と盛大なものとなりました。日本スポーツ歯科医学会は、東京オリンピック・パラリンピックを5年先に、ラグビーワールドカップ日本大会を4年先に控えている今、特に注目されており、会員数が急激に増加しています。前日の19日には、テーマ「スポーツ歯科医学の大学教育での取り組み」のもと、初めて全国の歯学部呼びかけてスポーツ歯科医学教育の方向性に関するワークショップが開催されました。

シンポジウム「スポーツ歯学の動向と、未来への提言」では、安井利一理事長(明海大学)が、日本のスポーツ歯科医学に関わる法制度の現状や日本体育協会認定スポーツデンティストの将来像について、前田芳信先生(大阪大学)は、スポーツ歯学には国民への健康寄与に残された課題が多くあり、世代に対応したデータと具体的なスポーツのあり方の提示の必要性について、月村直樹先生(日本大学)は、競技者が最高のパフォーマンスを発揮するためにスポーツデンティストが果たすべき役割についてご講演されました。教育講演では、安保 徹先生(新潟大学)がスポーツと免疫力と健康の関係についてご講演され、特別講演では、久野譜也先生(筑波大学)が、高齢化が進行するわが国において健康寿命を延伸するために、歩いて生活することを基本とする街づくりの大切さを解説されました。

その他、認定スポーツデンタルハイジニスト(SDH)セミナーやデンタルテクニシャン(DT)セミナーも行われ、一般口演発表・ポスター発表では各々活発な討論がなされ、学術大会は盛会裡に終了しました。



## 第13回日本再生歯科医学会開催報告

● 歯科保存学第1講座  
准教授

北島佳代子



平成27年8月29日(土)、本学講堂において、第13回日本再生歯科医学会学術大会・総会が、五十嵐 勝大会長(日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第1講座教授)のもと「口腔から全身への再生医療を考える」を大会テーマに開催されました。

教育講演1は、「再生医療の実現に向けたバイオマテリアル技術の最前線ー再生治療と再生研究の重要性ー」と題し、京都大学再生医科学研究所の田畑泰彦先生に、教育講演2は、

「細胞外マトリックス再生を導く新規創薬の開発ー歯からはじまり大動脈へー」と題し、東北大学大学院歯学研究科の齋藤正寛先生に、教育講演3は、「再生医療等安全性確保法の現状と展望」と題し、厚生労働省医政局研究開発振興課の飛田護邦先生に、教育講演4は、「形成外科領域における脂肪組織由来幹細胞を用いた再生医療の現状」と題し、順天堂大学医学部形成外科の水野博司先生に貴重なご講演をいただきました。

シンポジウム「歯科再生医療からの臨床応用の取り組み」では、「“安全”なバイオ再生医療の実現にむけてー歯髓細胞バンクが支える未来の再生医療ー」と題し、日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学の中原 貴先生に、「CPCの現状と骨膜シートによる歯周再生」と題し、新潟大学大学院医歯学総合研究科の吉江弘正先生に、「多様な歯周組織欠損に応じた再生療法の開発」と題し、広島大学大学院医歯薬保健学研究院の栗原英見先生に各々ご講演いただき、会場からの活発な質疑と討論が行われました。

ランチョンセミナーでは、「インフルエンザを取り巻く最近の話題ーワクチンの課題と対策ー」と題し、デンカ生研株式会社ワクチン学術部長の酒井伸夫先生にタイムリーなご講演をいただき、また、24題のポスター発表では、活発な質疑応答が繰り広げられました。

歯髓幹細胞は、骨髄幹細胞より分化増殖能が高く、全身の組織・臓器への分化能を秘め、採取も容易なため、医科領域からも注目されていますが、本学では本年、歯髓細胞バンクを設立したこともあり、当日会員も合わせ総数150名以上の参加をいただき、盛会裡に終了することができました。大会開催にあたり後援、共催、寄付、展示、広告、協賛をいただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。



## 日本口臭学会開催報告

●総合診療科  
准教授

大森みさき



2015年7月4日(土)、5日(日)の2日間に渡って日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座の佐藤聡教授を大会長に日本歯科大学新潟生命歯学部講堂において第6回日本口臭学会を開催いたしました。韓国から9名、県外から242名、その他県内、学内からも多数の御参加をいただき盛況のうちに終了いたしました。企業展示、広告に多数の企業様からご協力いただいた他、共催セミナーとしてランチョンセミナー1題を開催しまし

た。この場を借りてご協力、御参加いただいた方々に御礼申し上げます。

特別講演1題、教育講演2題、シンポジウム1題、市民公開講座1題、一般演題22題と充実した内容を組むことができ、大変活発な討議ができたことを嬉しく思います。

特に様々な見解がある舌苔をテーマとしたシンポジウムでは各分野のスペシャリストをお迎えして議論することができました。鶴見大学の前田伸子教授から細菌学の見地から舌苔の解説をしていただき、九州歯科大学の柿木保明教授から漢方と介護の現場からの舌苔の見方を、そして福岡歯科大学の谷口奈央准教授から口臭治療における舌苔の意義を実際の治療データを交えて、最後に日本歯科大学新潟病院歯科衛生科の藤田浩美先生から口腔清掃指導および歯科衛生士の学生教育の立場から舌苔にどのように対応しているか症例の紹介も交えてお話いただきました。総合ディスカッションを30分ほど取ったため、会場からの質問も非常に多く、演者間の意見交換も含めて活発な討議ができ時間が足りないくらいでした。

口臭治療は通常の歯科治療と異なり、手探りでそれぞれが取り組んでいる分野のため、このような機会に大勢の専門家が集まって意見を発表することが今後の治療に役立つと確信でき、非常に有意義でした。





## 平成25年度日本スポーツ歯科医学会 学術論文賞受賞について

●スポーツ歯科外来  
医長

渥美陽二郎



今回、日本スポーツ歯科医学会の機関誌において、最優秀の論文に送られる学術論文賞を受賞いたしました。論文名は「片側スプリント装着が静的立位バランスと脚伸展パワーおよび脚伸展パワー発揮時における顎頸部筋活動に及ぼす影響」です。現在、わが国では超高齢社会が問題となっており、なかでも高齢者の転倒は寝たきりや死亡に繋がる要因となります。高齢者の転倒原因の1つとして身体平衡機能や下肢筋力の低下が挙げられ、また咬合支持領域と身体平衡機能、下肢筋力との関連性についても報告されています。

今回の研究では、片側性咬合支持領域に注目し実験的に片側スプリントを装着させ、バイオメカニクス(生体力学)の面から静的立位バランスに及ぼす影響を検討しました。また下肢筋力の評価に広く用いられている脚伸展パワーおよび脚伸展パワー発揮時における顎頸部筋活動に及ぼす影響も検討しました。その結果、片側スプリント装着は静的立位バランスにおいて床反力(Ground reaction force:GRF)に影響を及ぼし、また脚伸展パワーおよび脚伸展パワー発揮時の顎頸部筋活動を低下させることが分かりました。これらの結果から改めて咬合支持領域の重要性が示唆され、また、高齢者の転倒のみならずスポーツ競技者、愛好家のスポーツパフォーマンス維持・向上を支援する面からも有益であると思われます。今後も国民のQOLに寄与できるよう、スポーツ歯科医学に関する研究を様々な面から検討を重ね、更なるエビデンスを発信していきたいと考えています。



## 第2回ロビーコンサートを開催しました



平成27年7月14日(火)、当院1階ロビーにて、経麻朗(きょうまろう)ジャズデュオの「初夏のジャズ～シネマにのせて」を開催しました。

経麻朗ジャズデュオは新潟市を拠点に活動している親子で、父の経麻朗さんがギター、息子の響一郎さんが電子ピアノを演奏してくださいました。「サウンドオブミュージック」や「いそしぎ」など往年の映画音楽など計6曲を演奏していただき、ご来場された皆様から、「久しぶりに生演奏が聞けてとても良かった。また開催してほしい。」と感想をいただきました。

(地域歯科医療支援室 看護師 神田 明)

編集  
後記

■秋の学会シーズンを終えとうとう新潟に冬が到来です。多くの学会での成果をIVY NEWS LETTERでお届けできることを大変うれしく思います。春とともに、蓄えた力を爆発させることができるようにこの時期ますます自己研鑽に励みたいと思います。まずは体調管理!!忘年会で飲みすぎないように注意です。(IKE)



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER



発行日／平成27年12月1日 発行人／山口 晃  
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8  
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)